

2022 年度 個人研究実績・成果報告書

2023 年 4 月 1 日

所属	国際教養学部	職名	教授	氏名	山田武
研究課題	災害と経済学				
研究キーワード	自然災害、経済	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	

1. 研究成果の概要

現在の防災政策では国土強靱化と自助・共助・公助を組み合わせで説明されることが多い。国土強靱化は自然災害に対して国土全体が耐久性をもち、自助・共助・公助は自助でまずリスクを個人が負担し、個人で負えないリスクは地域などで引受、自助共助で対応できないリスクを最後に公助として政府がリスクを引き受けることを意味する。自助・共助・公助は相互に影響し合うためそれぞれが独立して働くわけではない。政府は比較的コントロールしやすい防災インフラやシステムの構築をすすめているが、それらは自助や共助にも影響を与える。また、今後の人口減少や人口の都市への集中を考慮すると、地域によっては防災インフラなどへの投資が費用便益の観点から効果的ではないこともありえる。相互の影響を考慮した上で、居住地の選択に関する規制や地震保険の強制加入などについて検討する余地は残されている。

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

【著書・論文（査読なし）】

山田武、「防災政策と個人の選択」国府台経済研究第 32 巻第 1 号

【学会発表等】

3. 主な経費

研究実施にあたって必要な書籍、消耗品の購入などに活用した。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

(本文は2ページ以内にまとめること)